

### 国3・4・11号線周辺まちづくり推進地区の指定に関する説明会記録①（概要）

日 時	平成28年11月25日（金）19：00～20：30
場 所	本町・南町地域センター集会室・学習室
参加者	24名
事務局	中村都市計画担当部長，加藤まちづくり推進課長， 細江まちづくり推進担当係長，小川まちづくり推進担当係長， 中田まちづくり推進課主任，三田まちづくり推進課主任

#### 【次 第】

1. 開 会
2. まちづくり推進地区の指定に関する説明
3. 質 疑
4. 閉 会



【意見・質問の概要】※当日説明会で出た意見や質問は要約し，分野別にまとめました。

#### <まちづくりに関して>

参加者：まちづくり推進地区の範囲図の一番北は南町二丁目交差点の手前となっているが，学生が多く通るところで渋滞し事故も多いので，交差点まで推進地区に含めないのか。

市：交差点の手前までの区間を範囲に考えているが，交通の危険性が周辺にあるなら，今後のまちづくりの中で交通マナーなども含め検討できればと考える。

参加者：まちづくり協議会の構成人員について，公募委員，自治会・町内会，商店会の推薦者，学識経験者，市の職員を予定しているとのことだが，その内訳人数を知りたい。

市：具体的な人数は決定していないが，地区住民の方を中心に，推進地区内の自治会・町内会の方から8人以内，公募市民は2人以内，推進地区に関係する商店会から3人以内，学識経験者3人以内，市職員4人以内の全体で20人前後の構成を考えている。

参加者：2年間でまちづくり計画をつくり，その後5年間で何か工事を進めていくと理解してよいのか。

市：まちづくり計画は，まちの将来像やまちづくりの基本方針となるもので，計画策定後に市が行う具体的な事業の予定について，現在示せるものはない。まずはどのようなまちにしていくのか，平成29・30年度の2年間でまちづくり計画に位置付けていきたい。なお，東京都が行う街路事業は，概ね5年から7年との事業期間が示されており，今後，周辺のまちづくりは街路事業と並走する形で行う。

参加者：主要交通は国分寺街道から国 3・4・11 号線に移行すると思うが、国分寺街道の使い方は今後どのようにになると考えられるのか。また、車の流れはどちらの方向からも入ることができるのか。

市：国分寺街道は歩行者主体、国 3・4・11 号線は広域的な役割を担う幹線道路、という機能のすみわけになる。国分寺街道に車を入りにくくするのか、何か制限するのかなどこれからの計画の中で検討していく。

参加者：「まちづくりの方向性」の「国 3・4・11 号線新設区間エリア」と「国分寺街道区間エリア」は新しい道路ができるので街並みが変わると思うが、「重複区間エリア」は何ら変わらないと感じる。このエリアが現在と将来でどのように変わるのか、私たちが何をしなければいけないのかなど、説明してほしい。

市：「重複区間エリア」は、現道を拡幅する形であり、他の区間ほど環境が大きく変化することはないと考える。まちづくりの方向性では、「住商両立のまちづくり」とし、建築物をある程度高くすることを認めて一階に店舗を誘導するといったまちづくりの考えも示している。どのような店舗を誘導し、どのような取組を行うのか、今後、まちづくり計画の検討の中で具体的に検討していきたい。

参加者：既にビルの一階に店舗が入っているところは何ら変わらないということか。

市：既に店舗がある場所は、大きく変わることはないかもしれないが、どういう店舗を誘導していくかなど、皆さんの意見を聴きながら内容を詰めていく形になる。

参加者：「まちづくりの方向性」のパンフレットは少し誇大広告に感じる。国分寺街道の南町二丁目交差点から野川までの区間は、比較的道幅は広く、歩道はないが、方向性に示すイメージになるのだったら、既になっているはずである。

誤解を受けるので、もう少し分かりやすいように現実的な表現した方が良い。

市：「まちづくりの方向性」のイラストは、アンケート調査、懇談会の意見を踏まえ、目指す理想像を描いたものである。「まちづくりの方向性」は、どういうまちにしたいかという将来像であり、具体的に何をしていくのかはこれからの計画づくりの話になる。現実を見ながら、目指すまちの将来像をいかに現実化するか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っている。

参加者：都道を整備するついでにまちづくりではなく、ここのまちをどのようにしていくのかというビジョンについて、市はやってこなかったということか。道路を変えなくても 30 年前からじわじわとまちが変わっていった訳で、他の部署でこういうことを実現しようという部署はなかったのか。

市：こちらの沿道は近隣商業地域で商業的利用を誘導する地域になっている。今後、都市計画道路の整備により、歩道も整備され、人が歩きやすい環境ができる。それを活かしてより良いまちができないかと考えているところである。「重複区間」は駅に一番近いエリアだが、道路が駅に対して斜め方向に向かっているため、駅からまっすぐに人を呼べるような場所ではない状況にある。しかし、特徴的な店舗があったという経緯もあり、東側には東京経済大学があることから、学生達を

呼び込めるような特徴的なまちができ、それにつられて、他のお客さんも呼べるような相乗効果、理想のまちに近づけられないかと考えている。まちづくりは、私どもまちづくり推進課が担当しているので、今後も皆さんの知恵を借りながら、より良いまちづくりを推進していきたい。

参加者：「まちづくりの方向性」に武蔵国分寺跡の史跡のことが記載されている。道路がきれいになることは必要であり、史跡を多くの方が訪れることが必要だと思うが、新しい道路と史跡が茶色の点線で結ばれているのは何を指しているのか。

市：「まちづくりの方向性」において、「国分寺街道区間エリア」を歩行者主体とした背景は、懇談会の中でのなるべく人が集まるようにしたいという意見によるものである。西側にある史跡と連携し、どうすれば史跡周辺に人が流れるのか、また、国分寺街道の方に人が呼べるのかといったことを具体的に考えていきたい。

参加者：国 3・4・11 号線が整備されることにより、車は史跡エリアに入りやすくなる。国分寺街道はもともと危ないので改善してもらいたいが、道路整備だけでなく、武蔵国分寺跡などの史跡のことも考慮し、史跡への誘導など、計画づくりの中で一緒に考えてもらいたい。

市：別途史跡を中心としたまちづくりを検討していく予定があるため、担当部署と連携を図りながら検討していきたい。

参加者：道路工事とまちづくりの話は並行して進めていくと理解してよいのか。

市：国 3・4・11 号線の「新設区間エリア」は住宅地に幅員 16m の道路ができるため、道路整備の前にあらかじめ、まちづくりの方向性を決め、市が主体となって周辺のまちづくりを進めていく。

参加者：他にまちづくり推進地区を指定した地区はあるのか。指定されたエリアは具体的にどのような変化があったのか。

市：「史跡武蔵国分寺跡周辺地区」と「国 3・2・8 号線沿道地区」の 2 地区の事例があり、まちの将来像、まちづくりの基本方針を定めた。国 3・2・8 号線沿道地区では、沿道の用途地域の変更と地区計画を定めた。

参加者：まちづくり計画を策定した地区で、その後、どのようにまちの変化があったのか紹介してほしい。

市：「国 3・2・8 号線沿道まちづくり計画」に基づき都市計画の変更を行ったことが大きな変化である。国 3・2・8 号線の沿道は、もとは第一種低層住居専用地域で戸建ての低層住宅が中心の地区であったが、第一種住居地域に変更し、住宅以外の建物やある程度の高さの建物が建てられる地域となった。併せて地区計画という都市計画の制度を活用し、敷地前面への緑地の積極的な配置や、景観、建物の用途、具体的にはホテルは建てられないなど、独自のルールを定めており、それに基づく建築が少しずつ行われている。道路がまだ開通していないため、大きくまちの変化が表れるのはこれからとなる。

<街路事業に関して>

参加者：道路整備を行うというハード面はまだ先のことか。

市：ことしの2月に東京都が行った街路事業及び測量説明会で説明があったように、現在、測量作業を行い、道路の境界を確定するための調査を行っている。測量調査後、平成29年度に事業認可の手続きを行っていくスケジュールの予定になっている。事業認可後、用地の取得が始まって都市計画道路の完成までは、一般論だが概ね5年～7年と言われている。

参加者：実際に道路をつくるのは東京都が行うのか。

市：国3・4・11号線に関する道路工事、用地買収は東京都が行う。

<その他>

参加者：国3・4・11号線の“国”は国分寺という意味だと理解するが、3、4、11の数字は何を意味しているのか。冒頭の数字3以外に、2や4などの区分はあるのか。

市：国3・4・11号線の“3”は区分として「幹線道路」、 “4”は規格として「幅員16m以上から22m未満」、 “11”は一連の番号の「11番目」ということで国3・4・11号線という名称になっている。1は自動車専用道路ということで2の区分はない。その他の区分は後日、確認して回答する。

参加者：国3・4・11号線は「新国分寺街道」といった道路名称はつかないのか。都市計画道路の数字番号では分かりづらい。

市：道路が完成した場合には、名称がつくのではないかと考える。

参加者：ことしの2月に行われた東京都の説明会ではこれから測量に入り、測量が終わったところで権利者と相談すると聞いていたので、今日の説明会は、その第二弾だと思っていた。市と東京都の関係性が分かりやすいようなPRが必要である。広報の工夫を行い、誤解のないように説明会を開催してもらいたい。

市：今回のまちづくりは、東京都の街路事業に合わせた周辺のまちづくりであり、関係性がわかりにくかったことを反省している。今後もまちづくりの懇談会等を予定しているので、その際は広報の工夫を行う。

以上